

理工学研究科

I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

理工学研究科では、2019年度大学評価委員会の評価結果への対応、自己点検、2019年度目標の達成状況、2020年度中期目標・年度目標、および、認証評価結果における指摘事項への対応、いずれも概ね適切な対応が取られており、評価できる。

とりわけ、2019年度は、総合理工学インスティテュート（IIST）の拡充と学会研究補助金制度の拡充の決定により、強みのひとつである、研究活動をより充実させる点、および、弱みである博士課程入学者を増やすための方策が取られたことが高く評価できる。

また、2019年度は、在外研究員1名が学内サバティカル制度を活用して海外にて研究活動を実施しており、研究の質の向上とグローバル化への対応力を強化している点が高く評価できる。

一方、年度目標や達成指標については、今後も、目標の継続性と個別事項の具体的な計画の設定が望まれる。

また、2018年度に目標達成が不十分であった学生支援や社会連携・社会貢献についても、引き続き、達成指標に基づく成果の「見える化」への配慮が必要である。

2019年度の重点目標に対して、学会発表等補助金の充実を図られたことから、この目標に向けた準備が達成されたとと言える。今後は、この制度の活用を徹底し、学生の学会発表数を増やすこと、引き続き学会発表数を評価基準として、継続的に学習成果を評価することが課題である。

今後の貴研究科の展開に期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

評価された事項については、その一層の強化に努める。特に、研究の質の向上とグローバル化への対応については、学内サバティカル制度のさらなる活用、夏季・冬季休暇を利用しての海外大学での滞在、または、客員研究員制度とは別に、短期の海外研究者の受け入れに努める。他方、年度目標については具体化を、達成指標についてはその数値化に引き続き努めていく。また、学生支援や社会連携・社会貢献についても、コロナ禍の収束を見定めて、研究科独自の拡充学会発表補助金・外部団体からの補助金について、より徹底した周知を図り、その利用を促すように努める。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

理工学研究科についての2020年度大学評価委員会の評価結果では、年度目標や達成指標について目標の継続性と個別事項の具体的な計画の設定が望まれ、学生支援や社会連携・社会貢献についての成果の見える化、および学会発表等補助金制度を活用した学生の学会発表数の増加が課題とされていた。これに対する対応として、年度目標については具体化を、達成指標についてはその数値化に引き続き努めていく、といった定性的な記述となっており、具体的な対応がとられたかどうか不明である。そのため、次年度の目標設定時には年度目標については具体化を、達成指標については数値化することを確実に実行に移すことを期待したい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・教育内容

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っているか。

S A B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

研究指導教員によるきめ細かな個別指導の下で行う最先端の研究活動（リサーチワーク）を補完し、それに必要な学力の修得を目的とする体系的カリキュラムの編成・実施（コースワーク）を行っている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。	
・小金井大学院要項 III	
https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/3.2019courseoutlines_rikou.pdf	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。	
博士後期課程において求められる高度な研究活動（リサーチワーク）に対し、課題の発掘・推進・解決を多角的にサポートするカリキュラム編成（コースワーク）を設定・実施している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・小金井大学院要項 III	
https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/3.2019courseoutlines_rikou.pdf	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。	
【修士】	
教員は自らの研究活動・学会活動を通じて得られた知見を学生の研究指導・授業に反映することで、専門分野の高度化に対応した教育を実施している。また、最先端の研究分野で活躍している研究者を客員教員として招聘すること、各種セミナー・講演会を開催することで、最先端かつ高度な研究に学生が触れる機会を提供している。	
【博士】	
教員は自らの研究活動・学会活動を通じて得られた知見を学生の研究指導・授業に反映することで、専門分野の高度化に対応した教育を実施している。また、最先端の研究分野で活躍している研究者を客員教員として招聘すること、各種セミナー・講演会を開催することで、最先端かつ高度な研究に学生が触れる機会を提供している。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・小金井大学院要項 III	
https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/3.2019courseoutlines_rikou.pdf	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。	
【修士】	
本学独自の大学院生海外発表補助制度および英語論文校閲制度については、実績として、理工学研究科が学内において最も有効に活用してきた。大学院教育においては、世界で活躍できる一流研究者の育成が必須かつ急務であり、外国語コミュニケーション能力とグローバル視野を育成するために、海外留学、海外インターンシップ参加、国際会議発表を強く推奨している。日欧産業協力センター（経産省）主催のヴルカヌス国際インターンシップに積極参加しグローバル人材の育成に取り組んでいる。	
IIST（総合理工学インスティテュート）の新規開設に理工学研究科と情報科学研究科が協働して取り組んできた。2016年 IIST を開設し、多分野の横断的コロキウムの実施等を通じた専攻間の連携を行っている。	
【博士】	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>本学独自の大学院生海外発表補助制度および英語論文校閲制度については、実績として、理工学研究科が学内において最も有効に活用してきた。大学院教育においては、世界で活躍できる一流研究者の育成が必須かつ急務であり、外国語コミュニケーション能力とグローバル視野を育成するために、海外留学、海外インターンシップ参加、国際会議発表を強く推奨している。</p> <p>IIST（総合理工学インスティテュート）の新規開設に理工学研究科と情報科学研究科が協働して取り組んできた。2016年 IIST を開設し、多分野の横断的コロキユームの実施等を通じた専攻間の連携を行っている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2020年度より、研究科独自の海外学会参加補助金制度を設けた。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・小金井大学院要項 III</p> <p>https://www.hosei.ac.jp/documents/gsjyugyo/koganei/rishu/3.2019courseoutlines_rikou.pdf</p>	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※履修指導の体制及び方法を記入。</p> <p>【修士】</p> <p>リサーチワークは専攻を構成する教員の研究分野の研究テーマを実施することによって実践される。加えて「コースワーク」では、「リサーチワーク」を指導教員が担当する「特論」科目を必ず履修することで、リサーチワークを補完する。これに加えて、近接領域を専門とする教員の「特論」と非常勤教員による関連科目を履修する。これによってリサーチワークの充実とともにこれに資する関連知識の涵養が行える。</p>	
<p>【博士】</p> <p>学生に対するコースワークの整備に過去4年間にわたり取り組んできており、現行の就学生に対しては、単位化された授業科目が提供されている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HP や要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p>	
<p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学研究科ガイダンスを開催し、履修・研究実施に必要な情報を周知している。 ・指導教員による適切な履修および研究指導を実施している。 	
<p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学研究科ガイダンスを開催し、履修・研究実施に必要な情報を周知している。 ・指導教員による適切な履修および研究指導を実施している。 	
<p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <p>・小金井大学院要項 I</p> <p>https://www.hosei.ac.jp/documents/gsjyugyo/koganei/rishu/1.20190408courseoutlines.pdf</p> <p>・小金井大学院要項 III</p> <p>https://www.hosei.ac.jp/documents/gsjyugyo/koganei/rishu/3.2019courseoutlines_rikou.pdf</p>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>【修士】</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・小金井大学院要項に「修了までのスケジュール」、「履修モデル」を明記している。</p>	
<p>【博士】</p> <p>・小金井大学院要項に「修了までのスケジュール」、「履修モデル」を明記している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・小金井大学院要項 I</p> <p>https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/1.20190408courseoutlines.pdf</p> <p>・小金井大学院要項 III</p> <p>https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/3.2019courseoutlines_rikou.pdf</p>	
<p>④通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>講義内容さらには感染状況に応じて、遠隔講義と対面講義の使い分け・併用を行い、成績評価等についても同様の手段を講じた。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・Hoppii</p> <p>Hoppii : Gateway : Hoppii (hosei.ac.jp)</p>	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p>	
<p>【修士】</p> <p>・シラバスに成績評価の方法・基準を明示し、公平性を確保している</p>	
<p>【博士】</p> <p>・シラバスに成績評価の方法・基準を明示し、公平性を確保している</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p>	
<p>【修士】</p> <p>・小金井大学院要項に学位論文審査基準を明示している。</p>	
<p>【博士】</p> <p>・小金井大学院要項に学位論文審査基準を明示している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・理工学研究科修士課程学位審査内規</p> <p>・理工学研究科博士後期課程学位審査内規</p> <p>・小金井大学院要項 I</p> <p>https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/1.20190408courseoutlines.pdf</p>	
<p>③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>・専攻主任会議において、学位審査過程を運営管理し、学位授与状況を把握している。</p> <p>・研究科教授会において、専攻主任会議でまとめられた学位授与状況を確認・承認している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 理工学研究科専攻主任会議議事録 理工学研究科教授会議事録 	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>【修士】 指導教員は、学位論文研究進捗報告会・グループミーティング等を定期的に行い、学位水準を保っている。さらに、国内外の学会における研究発表に向けた指導を通じ、学位水準の向上に継続して取り組んでいる。</p> <p>【博士】 指導教員は、学位論文研究進捗報告会・グループミーティング等を定期的に行い、学位水準を保っている。さらに、国内外の学会における研究発表に向けた指導を通じ、学位水準の向上に継続して取り組んでいる。</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 学生補助金 学会発表奨励金 海外における研究活動補助費 </p>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p>【修士】 各専攻において修士論文発表審査会を実施し、主査・副査は学位審査基準に従い、公正な合否判定を行っている。各専攻の判定結果は、専攻主任会議における審査後、理工学研究科教授会において審議・承認される。一連の手続きを経たのち、適切な学位の授与が行われている</p> <p>【博士】 学位規則の通り</p> <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 理工学研究科専攻主任会議議事録 理工学研究科教授会議事録 理工学研究科修士課程学位審査内規 理工学研究科博士後期課程学位審査内規 小金井大学院要項 I https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/1.20190408courseoutlines.pdf </p>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全専攻から選出される就職担当教員によって構成される就職担当者会議において、小金井キャリアセンターと連携し、学生の就職・進学状況を把握している。 研究指導教員を通じて学生の就職・進学状況が調査され、就職担当者会議にて各専攻の集計結果が報告される。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 小金井就職担当者会議議事録 </p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※取り組みの概要を記入。	
【修士】 各専攻において 2020 年度指標となりうる評価基準を引き続き検討する。	
【博士】 各専攻において 2020 年度指標となりうる評価基準を引き続き検討する。	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ループリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。	
【修士】 学生の学会発表・論文投稿・受賞等の研究実績件数を集計し、この情報を基に学習成果を測定している。	
【博士】 学生の学会発表・論文投稿・受賞等の研究実績件数を集計し、この情報を基に学習成果を測定している。	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。	
【修士】 各専攻において、教員が実施する試験・レポートによる成績評価に基づき、学習成果の検証を行っている。	
【博士】 各専攻において、教員が実施する試験・レポートによる成績評価に基づき、学習成果の検証を行っている。	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 各教員は、FD アンケート結果を学生からの重要な意見情報として活用している。または、質保証委員会において、教育の質向上の重要資料として活用している。	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> 修士論文の中間発表会は、1年経過時の進捗状況を把握する場として、貴重な機会である。この機会は、学位取得までの一つの重要な節目と認識されており、論文主査以外の教員のコメントを学生、担当教員同士で取り交わすことで学位の質保証に繋がっている。 関連する学会での研究成果を発表する機会を作ることを奨励している。これにより、研究活動の水準を保つ努力をしている。 	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

理工学研究科はリサーチワークについて具体的な科目名を示すとともに、その科目でどのような指導がなされ、どのように定量的な評価が行われているのか明記もしくはそれらの内容が分かる資料を提示する必要がある。

指導教員の研究活動・学会活動を通じて得られた知見を基にした教育・研究が行われている。最先端の研究を行っている研究者を客員教員として招き、各種のセミナー・講演会を開催することで学生が最先端かつ高度な研究に触れる機会を提供している。

大学院生海外発表補助制度や英語論文校閲制度を利用した海外留学、海外インターンシップ参加、国際会議発表を強く推奨している。とりわけ、英語で学位取得が可能な IIST はグローバル化推進の取り組みとして高く評価できる。

研究計画に基づく研究指導や学位論文の指導については、修了までのスケジュールと履修モデルとが示されているものの、具体的な内容の記述がないのでその点を明記もしくはその内容が分かる資料を提示する必要がある。

成績評価の方法や基準はシラバスに明記されているが、どのように公平性が確保されているのかの記述がないので、明記する必要がある。

学位授与状況は専攻主任会議および教授会によって把握・共有されており、学生に国内外の学会での発表を行わせるなど、学位の水準を保つ取り組みも行われているようであるが、それらについての資料の提示などを行う必要がある。

学習成果測定のための指標の設定については、各専攻において指標となり得る評価基準を引き続き検討する旨の記載があるが、具体的な記述がなく、適切に設定されているか評価ができないことから、明確な記述が必要である。学生による授業改善アンケートの結果は質保証委員会において活用されているとの記述があるが、活用内容の具体例等を明記もしくはそれらの内容が分かる資料を提示する必要がある。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> 理工学部・生命科学部の質保証員会と連携し、FD活動を進めている。 	
【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> FD推進センターで実施される授業アンケート内容を各教員にフィードバックし、授業の質向上に活用している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。	
・教育研究補助金・学生研究補助金を継続して実施している。	
・子どもや一般社会人向けの科学体験プログラムなどへの出展を、教員に呼びかけている	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。	
※取り組みの概要を記入	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入	
・特になし	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・2019年度には在外研究員1名が、学内のサバティカル制度を活用して海外にて研究活動を実施した。在外研究の機会を積極的に活用することを推奨し、研究の質向上と、グローバル化への対応力を強化している。	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

理工学研究科では、理工学部・生命科学部と連携したFD活動が行われている。
社会貢献等については、コロナ禍のため催し物が少なく、受託研究や共同研究は今年度は28件、寄付研究は11件とあるが、具体的な実績についての記載もしくはそれらの内容が分かる資料を提示することが望まれる。

3 その他の基準のCOVID-19への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献におけるCOVID-19対応・対策を行っている

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

か。
①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入 講義を2部制にすることで出席者を少人数にして感染を防ぎ、できる限り対面での講義を実施した。
【根拠資料】 ・Hoppii Hoppii : Gateway : Hoppii (hosei.ac.jp)

【この基準の大学評価】

理工学研究科では指導教員による徹底した個別の指導が特色であると推察されるが、講義を2部制にすることで出席者を少人数にするという感染防止対策をとりつつ、できる限り対面での講義を実施したことは評価できる。

III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	IIST コロキウム等、専攻連合型研究会の開催回数の増加	
	年度目標	2020年度中3回の研究会実施と内容の充実	
	達成指標	開催実績 参加者への聞き取り	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	オンラインでフォーラムを2回開催した。
		改善策	コロナ禍終息後に向け、更に回数増加等をはかる。
質保証委員会による点検・評価			
所見	コロナ禍の中、開催回数が目標に届かなかったことはやむを得ない。その中でオンラインで2回開催したことは評価される。		
改善のための提言	回数が増加するに越したことはないが、回数に注力するよりもコロナ禍での知見を生かして、オンライン併用等による効果的な開催、発信方法を検討することが望まれる。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	ポリシーに基づいた教育、学位授与	
	年度目標	ポリシーに基づく、カリキュラム・マップの継続的見直し	
	達成指標	web サイト	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	コロナ禍対応で、手一杯であった。
		改善策	コロナ禍終息後に向け、カリキュラム・マップの見直しについて議論を始める。
質保証委員会による点検・評価			
所見	当初の想定になかったコロナ禍対応に追われたことが原因であると考えられる。		
改善のための提言	カリキュラム・マップの継続的見直しの再開が望まれる。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	引き続き研究論文の質向上の量の拡大を目指す。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	今年度より研究科独自で拡充の学会発表補助金について周知し利用を促すとともに、その次年度以降の運用方針についても検討する。
	達成指標	「学生補助制度利用状況」実績 専攻主任会議議事録
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	コロナ禍のもとにも関わらず、研究科独自の学会発表補助金については、69件の利用があった。
	改善策	コロナ禍終息後に向け、研究科独自の学会発表補助金について更に周知をはかる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍にもかかわらず、質の高い研究成果を継続的に発出している。
	改善のための提言	コロナ後はさらに学会発表が増加すると期待されるので、学会発表補助金制度を周知するとともに、補助制度の更なる拡充が求められる。
No	評価基準	学生の受け入れ
4 年度末報告	中期目標	より一層の国際化を目指し、留学生の就学率を増大させる。
	年度目標	今年度より拡充の博士後期課程研究助成金について留学生候補者等へのPRに努める。
	達成指標	入学者数実績
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	C
	理由	コロナ禍もあり増加してはいない。
	改善策	理工系では遠隔では行えない研究・教育が多く、コロナ禍のもとでは留学生増は難しいが、コロナ禍終息の折には留学生候補者へのPR等に努める。
質保証委員会による点検・評価		
所見	コロナ禍の中、留学生が増加しなかったことはやむをえない。理工系の実験系研究は遠隔で効果的に実行することは困難である。	
改善のための提言	遠隔でも可能な研究・教育内容については、この機会に試行を始め、優秀な留学生就学者獲得の窓口とし、今後のPRに繋げることが望まれる。	
No	評価基準	教員・教員組織
5 年度末報告	中期目標	年齢構成の適正化は達成されつつある。次世代の研究・教育ニーズに合致した教員組織のありかたを専攻主任会議で定期的に意見交換する。
	年度目標	各専攻において、長期的な視点にたって教員を新規採用する場合の専門領域に関する議論を行う。
	達成指標	専攻主任会議議事録
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	大部分の教員は大学院専任ではないため、大学院が主体となった人選は難しい。
	改善策	各専攻に連なる学科に対して、新規採用時には大学院に関わる議論を行うよう依頼する。
質保証委員会による点検・評価		
所見	大学院が主体となった選考は制度上難しいが、年齢構成については、改善されてきていることが確認できる。	
改善のための提言	今後も各学科と連携しながらの、長期的な視点に立った組織設計が望まれる。	
No	評価基準	学生支援

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

6	中期目標	「学習成果」の項目で掲げた目標達成を支援するために外部資金導入とその学生への還元、および学内の支援金制度を充実させる。		
	年度目標	博士後期課程研究補助金、また研究科独自で拡充の学会発表補助金について、周知し利用を促す。		
	達成指標	「学生補助制度利用状況」実績		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	コロナ禍にも関わらず、研究科独自の学会発表補助金については、69件の利用があった。	
		改善策	コロナ禍終息後に向け、研究科独自の学会発表補助金について更に周知をはかる。	
質保証委員会による点検・評価				
所見		コロナ禍にもかかわらず、質の高い研究成果が継続的に発出され、研究科独自の補助制度が活用された。		
改善のための提言	コロナ後はさらに学会発表が増加すると期待されるので、学会発表補助金制度のさらなる周知を行うとともに、企業との協力など外部資金による補助制度の更なる拡充が望まれる。			
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
7	中期目標	外部研究資金、特に一般企業からの寄付研究の受け入れ、共同研究の額を増大する。		
	年度目標	外部資金の受け入れ状況や、成果還元の機会である一般向けの催し物（内部・外部）の参加案内について、専攻主任会議で報告する。		
	達成指標	研究開発センターの実績報告 専攻主任会議議事録		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	コロナ禍のためもあり、催し物が少なかった。受託研究や共同研究は今年度は28件、寄付研究は11件であった。	
		改善策	コロナ禍終息後に向け、専攻主任会議にて現状報告を行い、また寄付研究や受託研究の受け入れを促していく。	
質保証委員会による点検・評価				
所見		コロナ禍のため情報発信のための十分な活動が出来なかった面はあるが、企業との共同研究は一定程度の水準を保っている。		
改善のための提言	コロナ後に向けて、外部資金の受け入れのための情報発信の強化、さらには成果の還元などについても検討していくことが望まれる。			
【重点目標】 教育課程・学習支援、ならびに学生支援				
【目標を達成するための施策等】 研究科独自の補助金等を活用し、引き続き学生の国内・海外における学会発表を促し、外部への発信や外部との交流を通じた研究能力の涵養をはかる。				
【年度目標達成状況総括】 オンラインで開催された学会等があったものの、世界的なコロナ禍のためもあり学会等への参加は比較的低調となった。しかし研究科独自の補助金（オンライン開催を含む海外学会発表、年度内2度目を対象としたもの）も利用実績がある。今後はコロナ禍終息後に向けて、さらに学会発表や外部との交流等を促進する必要がある。				

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

理工学研究科では、「教育課程・学習支援、ならびに学生支援」が重点目標として掲げられ、2020年度から研究科独自に拡充した学生補助制度によって学生による学会発表を補助し、結果として69件の利用実績があったことは評価できる。今後についても増加していくことを期待する。一方で、年度目標や達成指標については、わかりづらい表現が目立ち、達成指標に至っては指標として疑問の残るものがあった。特にB評価、C評価で目標の達成が不十分であったもの、もしくは目標が達成できていないものについては、改善点を具体化することが望まれる。

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】
1	中期目標	IIST コロキウム等、専攻連合型研究会の開催回数の増加
	年度目標	2021年度中3回の研究会実施と内容の充実
	達成指標	開催実績 参加者への聞き取り
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】
2	中期目標	ポリシーに基づいた教育、学位授与
	年度目標	ポリシーに基づく、カリキュラム・マップの継続的見直し
	達成指標	web サイト
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関する事】
3	中期目標	引き続き研究論文の質向上の量の拡大を目指す。
	年度目標	資金面では、一昨年度より研究科独自の学会発表補助金拡充が図られたことから、その一層の利用を促すとともに、研究面では、質・量ともに向上させる指導を行うと共に、論文採択の技術をも併せて教育する。
	達成指標	「学生補助制度利用状況」や「採択論文件数」の実績、専攻主任会議議事録
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	より一層の国際化を目指し、留学生の就学率を増大させる。
	年度目標	昨年度より新設された奨学金・給付金制度について、日本人・留学生の候補者へのPRに努める。
	達成指標	入学者数実績
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	年齢構成の適正化は達成されつつある。次世代の研究・教育ニーズに合致した教員組織のありかたを専攻主任会議で定期的に意見交換する。
	年度目標	各専攻において、長期的な視点にたつて教員を新規採用する場合の専門領域に関する議論を行う。
	達成指標	専攻会議議事録
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	「学習成果」の項目で掲げた目標達成を支援するために外部資金導入とその学生への還元、および学内の支援金制度を充実させる。
	年度目標	博士後期課程研究補助金、また研究科独自での拡充学会発表補助金について、さらには、外部団体からの補助金について、周知して利用を促す。
	達成指標	「学生補助制度利用状況」実績
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	外部研究資金、特に一般企業からの寄付研究の受け入れ、共同研究の額を増大する。
	年度目標	外部資金の受け入れ状況や、成果還元の機会である一般向けの催し物（内部・外部）の参加案内について、専攻主任会議で報告する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

達成指標	研究開発センターの実績報告 専攻主任会議議事録
<p>【重点目標】</p> <p>教育課程・学習支援、ならびに学生の受入・学生支援</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>研究科独自・外部団体からの補助金等を活用し、引き続き海外からの学生の受け入れや学生の国内・海外における学会発表を促し、外部への発信や外部との交流を通じた研究能力を涵養する。</p>	

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

<p>理工学研究科では、研究科独自・外部団体からの補助金等を活用し、引き続き海外からの学生の受け入れや学生の国内・海外における学会発表を促し、外部への発信や外部との交流を通じた研究能力を涵養することが示されており、活動の目標自体は適切に設定されている。一方、昨年度B評価、C評価であった項目については改善点を具体的に目標や達成指標に反映させることが望まれる。年度目標が昨年度と同じものになっているものがある。また、昨年度も指摘されていたが、社会人入学者に対する学習支援についての活動に関する記述がないが、一貫性のある活動の観点から記載することが望ましい。</p>

V 2019年度認証評価指摘事項に対する改善計画報告

No.	種別	内容
1	基準	基準4 教育課程・学習成果
	指摘区分	改善課題
	提言（全文）	<u>教育課程の編成・実施方針について、理工学研究科システム理工学専攻（修士課程）では教育課程の編成に関する基本的な考え方が示されておらず、デザイン工学研究科（博士後期課程）と専門職学位課程の法務研究科では、教育課程の実施に関する基本的な考え方が示されていないため、改善が求められる。</u>
	大学評価時の状況	教育課程の編成・実施方針を定め公表していたが、認証評価において求められているものとはなっていなかった。
	大学評価後の改善状況・改善計画	<p>研究科長会議資料における2020年9月17日の熊田理事の「大学評価（認証評価）結果における指摘事項への対応について」、具体的には、「理工学研究科システム理工学専攻（修士課程）においては、各学生が所属する研究室ごとによる教育方法ではなく、教育課程としての編成方針について記載が必要」に基づき、2021年1月15日第9回教授会において以下のように修正した。現行の文言冒頭の「修士課程ではまず、」を削除した上で、次の文章を挿入した。</p> <p>「学部との一貫教育を意識したカリキュラムを提供する。修士課程ではまず、専任教員と多彩な兼任講師が提供する多彩な科目の中から各自の研究領域の科目を中心に履修し、DP1ならびにDP2の前半部である「専門分野における十分な素養を修得」することが目標である。DP1とDP2の後半部である「新規性のある概念等が構成できること」（DP1）と「既存の概念を組み合わせて有用な成果物を生み出す技術力を有すること」（DP2）については、各学生が所属する研究室の教員によるシステム理工学特別研究と特別実験の指導を通じて、国際会議での学会発表を推奨することなどにより、国際社会においても通用する知識・技術を獲得させる。」</p>
	「大学評価後の改善状況・改善計画」の根拠資料	2021年1月15日第9回教授会資料

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【認証評価結果における指摘事項への対応状況に関する評価】

理工学研究科は、2019年度認証評価においては、「教育課程の編成・実施方針について、理工学研究科システム理工学専攻（修士課程）では教育課程の編成に関する基本的な考え方が示されていない」ことが指摘され、改善を求められていた。これに対して、理工学研究科は「教育課程の編成・実施方針を定め公表していたが、認証評価において求められているものとはなっていなかった」とし、報告書の文言修正を教授会で決議している。HPにおいても文言の修正は完了しており、適切に対応を行っている。

【大学評価総評】

理工学研究科における教育課程・教育内容、教員・教員組織について概ね適切に運営がなされている。学生に対して経済的な支援を行うことで学会発表や論文投稿を奨励するという実際的な人材育成を目指していることは評価できる。IISTの取り組みや、大学院生海外発表補助制度や英語論文校閲制度を利用した海外留学、海外インターンシップ参加、国際会議発表を強く推奨し、グローバル化に対応していることは評価できる。2019年度認証評価結果における指摘事項についても適切に対応をしている。一方2021年度目標・達成指標において、昨年度の改善点が具体的に目標・達成指標に反映されていないものが一部見受けられる。また、全体的に具体性に乏しい記述があり、評価が難しい点があった。昨年度からの指摘に引き続き具体的な目標・達成指標の設定が望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。